



独身男女の「出会いの場」創出



▲結婚式場のチャペルでセンスアップ講座

独身男女の出会い・交流の場を創出する「ハッピーマジックの会」（事務局・南あわじ市少子対策課）では、十一月十八日、南淡路ロイヤルホテルで、初の交流イベントを開催しました。

リートーク。ゲームを交えながら、和やかな時間を過ごしました。十二月十三日には「年忘れパーティー」を中華料理「海邦」で開催。これらのイベントの企画は、会員らで取り組んで行き、今後モスキーツアー（十四頁に募集記事）や野外グルメ体験など、様々な催しが計画されています。詳しくは、少子対策課（☎44・3040）までお問い合わせください。

「幼稚園ウィーク」親子でふれあい

親子関係を深めてもらうと、市内六つの幼稚園が合同で、「幼稚園ウィークin西淡」を市内二会場で行いました。十二月二日、松帆活性化センターでの「親子遊び」では、親子約三百人が参加。講師に元NHK体操のお兄さん・米田和正さんらを招いて、親子で歌や体を使ったゲームを

楽しみました。また、西淡公民館での「造形展」では、クリスマスマスをテーマに園児が制作した絵画や造形作品等を展示。心温まるユニークな力作が並び、多くの来場者の目を楽しませていました。（二十四頁の「ぼくとわたしのギャラリ」参照）



▲仲良くゲームで楽しむ親子

市職員が新たな行政施策などを提案



▲有意義な意見が出された職員提案評価委員会

最近の社会情勢の変化はめざましく、この変化に対応し、多様な行政課題に立ち向かう人材が強く求められています。南あわじ市では、本年度より職員が市民のために、市政を推進する自覚を持ち、新しい行政課題に挑戦するとともに、行政・施策への益々の積極的な参画意識を醸成し、志気の高揚を図るため、南あわじ市職員提案制度を制定しました。

職員提案制度を導入

十二月五日、第一回目の職員提案評価委員会を開催。職員から事務の効率化や窓口サービスの充実などについての有意義な提案がありました。発表に続き、審議が行われ、部分的に採用することが話し合われました。同会では、今後も職員が既存の枠組や発想にとらわれないう自主的で主体的な提案などが出されるよう、制度の積極的な活用について働きかけていきます。

淡路消防保安協会からAED

淡路消防保安協会は、島内三市に自動体外式除細動器（AED）を寄贈。十二月五日淡路消防ビルで贈呈式が行われ、志田修二会長から中田勝久市長へ南あわじ市分二台を渡されました。AEDは、心臓がブルブルと細かく震える「心室細動」という状態になったときに、電気ショックを与えて心室細動を取り除く機器です。式で志田会長は「救命率

消防団「なでしこ分団」発足

島内初の女性消防分団

今年一月に誕生した南あわじ市女性消防団員による「チームサザンクロス」が、島内初の女性分団「なでしこ分団」として正式に発足しました。十二月一日、市役所



▲真野団長から辞令を受ける村野分団長（中央）と青石副分団長（右）

中央庁舎で辞令交付式が行われ、真野和典南あわじ市消防団長から村野貴美分団長、青石晴菜副分団長に辞令が交付されました。同分団は二十名の団員全てが女性。これまでも火災予防運動の啓発や、上級救命講習を受講するなど活発に活動を行ってきました。今後は、分団として自主的に活動計画が決められるなど、益々飛躍的な活動が期待されます。

村野新分団長は「分団になって、責任の重さを感じています。女性ならではの活動にこれからも取り組みたい」と話していました。

市議会の新議長、副議長決まる

南あわじ市議会は、十一月二十七日開かれた第十八回南あわじ市議会定例会（一日目）において、正副議長選挙を行

い、議長に登里伸一氏（津井）、副議長に楠和廣氏（松帆）が当選されました。

資源や環境について学ぶ

エネルギー教育フェスティバル



▲静電気を起こす実験に熱中する児童ら

エネルギーや環境について正しく学ぶ「淡路島エネルギー教育フェスティバル」が、十二月七日、松帆小学校で開かれました。同小学校では、平成十七年度から環境教育情報センター（経済産業省委託）のエネルギー教育実践校に指定され、外部講師を中心に、子どもたちに正しい知識を教えるエネルギー教育を行ってきました。最終の本年、島内初の同フェスティバルが開催されたものです。

この日保護者や関係者らが見守る中、二百五十七人の全児童は、学年・クラス毎に、様々な題材を通して、楽しく実験をしながら勉強していました。

長は、「住民の尊い命が救われるよう、有効に利用させていただきます」と謝辞を言いました。AEDの使用を含む救命講習の団体申込みについては、淡路広域消防事務組合南淡分署に、お問合せください。

「青パト」ボランティアに揃いのユニフォームを貸与

子どもを凶悪犯罪から守る、青色回転灯を装備した公用車による巡回パトロール。昨年八月から始まり、現在三十一人の市民ボランティアがパトロールしています。十一月二十九日、中央庁舎で、ボランティアの方に、南あわじ防犯協会（会長、中田勝久市長）から緑色のウィンドブレーカーが貸与されました。揃いの服装で、活動が容易に視認されやすく、パトロールの効果



▲市民ボランティアに貸与された緑色ウィンドブレーカー

の向上が期待できます。



▲志田修二会長（左）から中田市長に渡されるAED

アップにつながることを切望します」と述べられ、中田市